

2 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター 「京(みやこ)あんしんこども館」を知っていますか？



- ◆京都市が8年前に梅屋小学校跡地に子どもの安心・安全を守るために作った施設です。
- ◆子どもの病気や育児の不安の相談にベテラン小児科医・保健師・看護師が対応します。
- ◆子ども達に発生しやすい事故の調査と事故を減らすために予防対策を考えています。
- ◆8年間の来館者：21,297名（個人12,038名・団体9,259名）
- ◆8年間の保健医療相談：8,806件（電話相談7,571件）



◆◆◆◆◆事故のアンケート調査にご協力いただきありがとうございました◆◆◆◆◆

今回の情報 心身の発達相談…

- 1位 便の様子
- 2位 体重の増加が悪い
- 3位 発育の遅れ
- 4位 夜泣き(夜中の哺乳回数)
- 5位 ゲップが出ない



今回の情報は「心身の発達について」です。なかでも1番は便の相談で圧倒的です。下痢・便秘や排尿・排便の自立などいろいろな相談があります。便は回数、色、臭いと人により様々で、「いつもと違う」と気づくことが大切なことです。色は月齢や食べ物で変わります。出生直後はねばねばの黒い胎便、哺乳開始後5～7日で黄色のやわらかいニュルニュルの便になります。母乳、人工乳、飲んだ量、離乳食が始まると、また変わるので、どれが普通の便かわかりにくくなります。血が出たり、

白っぽい便、水様便が3日以上続くと異常ですので便持参で受診してください。便秘では「ウン」と気張って苦しそうと思う親は多いのですが、「の」の字を書いてお腹のマッサージをし、5日以上でない時は受診してください。オシッコがいつもより少なくて黄色が濃い時は、水分不足の可能性があるので受診してください。

相談の2番は体重増加不良、3番は各種の動作や追視をしないなどです。早い・遅いは親からの遺伝で両親のどちらかに似て成長するのです。早い子も遅い子もいます。その上、発育や発達には幅があり一人ひとり違うので、他の子と比較しないことです。例えば、体重は母子健康手帳の中の発育曲線を参考にしてください。10か月になったのにつかまり立ち出来ない子でも、8～9か月で這っていたのなら気にせず、間もなく立つでしょう。わが子の成長を確認する機会として、お住まいの区の保健センターで実施している乳幼児健診はきちんと受けてください。

ワンポイント

子どもは日々発達・発育していますので変化の連続です。親が見えるのは、便、オシッコと顔を含む体全体の表情だけです。便がひどい水様で昨日と違う状態であれば問題です。水分が不足ならオシッコが濃い黄色か、出ないなどがサイン。このような状態なら子どもは機嫌が悪く、表情に生き生きとした様子が見えません。体重の増加不良や夜泣きは哺乳量不足が疑われるため、受診の必要があります。ゲップが出にくい時は先輩に方法を聞いてみましょう。

何をしているの？

- * 来館者にはセーフティハウスの見学と家庭内事故防止について説明しています。
- * 団体来館者には見学と小児科医による「子育て不安」、「児童虐待」「家庭内事故」等の話をしています。
- * 講習会ではお子さんの「心肺蘇生法講習会」、「チャイルドシート装着、幼児2人同乗用自転車の講習会」もしています。
- * 子どもの事故防止実践・応急手当マニュアルを進呈します(無料)。

場所は？

中京区釜座通丸太町上る梅屋町
(第二赤十字病院南隣)
TEL 代表 075-231-8002
相談 075-231-8005
FAX 075-231-8003
<http://www.anshinkodomokan.jp>